

お お ぞ ら

No.184

聖隷福祉事業団への法人移管後は67号

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
総合病院 聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター

〒433-8558
静岡県浜松市北区三方原町3453
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功
編集者 横地健治

2018年3月1日

「社会的参加」

横地 健治

障害があるとは、ふつうに生きることに困難な状態です。その困難に対し必要な支援を行うには、その生活全体を適切に評価しなければなりません。そのため、国際生活機能分類(ICF)は、その生活機能を「心身機能・構造」・「活動」・「参加」の三者でとらえることを提案しています。「心身機能・構造」は、

調しています。以前の本通信で、施設は一つの社会であり、その社会への参加を保障すべきと述べました。本号では、この問題をさらに具体的に考えてみます。

り・看護の実習生、訪問教育教官などが定期的に訪れます。こうしてみると、常時住んでいる人(入所者と職員約280人)とほぼ同数の定期的来訪者がいます。この数から、社会参加対象の十分な量はあると考えます。「参加」は家庭や社会に関与することなので、約10人の家族(一グループの入所者と職員)と約560人の社会人(入所者・職員と定期的来訪者)が「参加」の対象者ということになります。この人たちと関わり何かを成したと、本人が自覚することがあれば、その人はICFの言う「参加」を経験したと私は考えます。なお、この「参加」の語は、参加対象を示さずに使うと日本語としてはしっくり来ません。以後、ICFの「参加」を「社会的参加」と言い換えて使おうと思います(ICFの「参加」の意味に変更は加えていません)。

交流を経験してもらおうと考えていました。ICFが「参加」を提唱する以前から、私たちはこれを実践していたという自負があります。

昼間は、主にこの活動スペースで過ごし、「生きがい活動」と「一般的生活活動」を行います。前者は、その人なりの満足感・達成感を感じてもらおう個別活動です。後者はそれ以外の活動の総称です。同じグループの人・職員・来訪者の行動を見聞きし、さらに関わりの経験してもらいます。テレビを見たり音楽を聞く経験してもらいます。このように、「一般的生活活動」は幅広いものです。ICFは「活動」から「参加」を抜き出し、その意義を強調しました。これにならない、私たちが「一般的生活活動」から「社会的参加」を抜き出し、さらにこれを意識した生活設計をしなければならぬと考えています。

肢体不自由、精神機能・視聴覚機能・内臓機能の障害を指しています。「活動」は、課題や行為の個人による遂行のことです。日常生活行為(ADL)・職業・趣味など幅広いものを指しています。「参加(participation)」は、生活・人生場面への関わりのことです。家庭や社会に関与し、そこで役割を果たすことを指しています。人が生きるとは、その人の住む社会の中で、何かを成す経験を積みこととICFは考えています。毎日ひとりで安楽に過ごせばいいとはしていません。「ノーマライゼーション」の理念もこれを示していますが、ICFでは、「参加」を「活動」と並列させ、さらにその意義を強

当施設は3棟に分かれて、約140人が生活しています。その生活単位は九つあるゾーンです。一ゾーンの住人は15〜20人です。ゾーンはさらにグループ化され、一グループの住人は5人程度です。入所者に加えて、ほぼ同数の職員が入れ替わり(三交代)ここに住んでいます。一グループの10人(入所者5人と職員5人)を1家族とみなせば、施設は28家族(入所者と職員を合わせ約280人)の集合ということになります。これは、小さいですが、一つの社会単位と言えるものです。入所者の家族もたびたび訪れ、そのゾーンのすべての入所者はその家族のひとつとなりに接することになります。また、年間約170人がショートステイを利用するので、その本人と家族がたびたび訪れます。さらに、リハビリ職員・臨床工学技士、事務職員、リハビ

以前から、私たちの施設では、寝室と昼間の活動スペースを分けることを原則としていました(例外は、睡眠覚醒リズムが明らかではない人工呼吸器使用者です)。これは、一般の人が毎日家から社会に出る行為と同じです。昼間は他の人と集う場に出て、対人

この場合問題となるのは、他者との関わりの経験を積める状況を介助者が造らなければならぬことです。移動能力に問題がない人では、社会に関わる場所に自分の意志で自由に行くことができます。しかし、重症心身障害児者ではそれはできません。それど